PFI 導入の検討結果

ホールの大規模修繕に当たり、他自治体やゼネコン会社へのヒアリングを実施し、PFI 導入の有効性を検討した。

視　点	検　討　結　果
民間活力の導入	新日本フィルハーモニー交響楽団による利用が年間 150 日程度（大ホール）あり、施設利用の自由度が低いため、十分な効果は見込めない。
区民サービスの向上	知識やノウハウを持った民間事業者が管理運営することで利用者全体のサービス向上は期待できる一方、一般的に、民間運営では利益率を重視するため、区民向けサービスが制限されるおそれがある。
管理運営の効率化	一般的に、事業運営を除く、設計・施工・維持管理の PFI では大きな効率化は見込めない。
競争性（民間事業者の参画の可能性）	極めて専門的な設備を有する施設の修繕であり、多くの事業者の参入が困難である可能性が高く、競争性が働かないおそれがある。
財政負担	経費負担の平準化が図られる一方、今後の維持管理のクオリティをさらに高める提案となれば、総事業費が高くなる可能性がある。
手続面	包括的な契約が可能となる一方、検討から実現までに十分な調整を要し、一定の準備期間が必要となる。

【総合評価】

事業運営を含めた PFI は、ホールが新日本フィルハーモニー交響楽団の活動の拠点であり、優先的利用を認めていることから、PFI 導入にはなじまないと考えられる。

事業運営を除く、設計・施工・維持管理の PFI であれば導入の可能性があるが、極めて専門的な設備を有する施設の修繕であり、募集の際に競争性が働かないおそれがある。また、高い利益率が見込めないことから、応募自体があるか不透明である。

コスト面においては、PFI の導入により経費負担の平準化が期待できる一方、維持管理のクオリティを一定程度保つためには相応の経費がかかり、総事業費の大幅な圧縮は見込めないと考えられる。